

							今回	前回	
I.理念・安心と安全に基づく運営			A	B	C	D	評点	評点	
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1	8	3		34	34.9	まだコロナのことで地域密着ができていない。
2 運	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		6	5	1	29	32.7	コロナ禍もあり、地域の方との関わりが減少している。ボランティアの方とも関わりが途絶えているのが残念。
3 運	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		11	1		35	36	職場会議しかしないが、取り組み状況の報告があり把握できている。 運営推進会議で議題になったことを職場会議などで話して改善していることがある。
4 運	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	1	9	2		35	32.7	ケアマネにより連携できていると思う。
5 外	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4	5	3		37	39.3	玄関の施錠は安全のため行っているが、しなくても可能かを検討するべき。 センサーマットを使用している方が数名いるが、定期的に外せないか検討するべき。 身体拘束にならないように職員と話し合い工夫ができていると思う。
6 外	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6	4	2		40	39.3	接遇委員会が啓発を行い、施設内研修もしている。 ささいなことでも見逃すと大きな事につながる可能性があると思います。 事故防止委員会などを作ったり話し合う機会が増えた。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1	7	4		33	31.6	管理者が施設内研修で成年後見制度について研修を行った。 日常生活自立支援事業についての研修はできていない。 職場会議などで一人一人のことを話し合っている。

8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	2	10			38	40.4	
9 外	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3	7	2		37	34.9	今年度中に3年ぶりに家族会を復活させる予定。以前に比べてブログ更新などができている。それを見ている方が増えていると思う。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		11	1		35	33.8	毎月会議を行い意見を聴いている。話し合う機会を作っている。
11 外	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1	5	6		31	38.2	平日は代表が現場に顔を出して手伝って下さることもある。
12 外	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		10	2		34	36	研修への補助制度がある。職員が興味を持てるような研修やパンフレットを準備されている。もう少し指導などを行い現場の状況を把握してもよいと思う。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1	7	4		33	31.6	コロナ禍でここ数年していないが、以前は各事業者の祭りやゲーム大会、交換研修で定期的に参加させていた。
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	3	8	1		38	37.1	
15 運	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2	9	1		37	37.1	コロナ禍でも本人希望や家族要望があれば、テレビ電話など柔軟に対応している。（利用者さまが生きがいがもっているようにしている）

II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								0	
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	3	8	1		38	39.3	今までの生活習慣をなるべく崩さないよう、そしてここでの生活にも慣れて頂くように両方の工夫をしている。
17 運	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2	10			38	38.2	職場会議で行えている。 利用者さまの困難事例についてその場で話し合ったり、実施したりで工夫を重ねている。また担当者が責任を持ち改善したり会議で多数の意見を求めて実施したりしている。 その時の変化を職場会議で話し合い、その人のためにあったケアができるよう計画を立てられていると思う。
18 外	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	2	10			38	39.3	気になったことはその場で共有して話している。
19 運	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2	10			38	37.1	
20 運	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		11	1		35	33.8	利用者さまが出来る家事仕事を見つけ、楽しくされている。
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4	8			40	39.3	
22 外	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2	9	1		37	40.4	入院されたときに利用者さまがどういう状態かを病院と情報交換できていると思う。

23 外	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	6	6			42	41.5	今年度も開所以来過ごされた利用者さまをお二人看取りしました。ケアマネやスタッフが家族様と細目々に連絡を取り合いました。スタッフも経験を積み苦痛の少ない穏やかな看取りができたように思います。 状態をご家族に細目に報告することができていると思う。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1	8	3		34	30.5	看護師が定期的に急変時訓練を実施している。 定期的な訓練がされておらず長い期間していないと忘れる。
25 外	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1	5	6		31	33.8	水害想定があまりできていないように思う。 不審者対応訓練を実施した。 日中の対応はほぼ出来ているが夜間となるとできない人がいると思う。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								0	
26 外	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1	10	1		36	37.1	接遇委員会が啓発を行っている。施設内研修を行っている。 その方に合った声かけができていますが、できていない職員もいる。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	1	9	2		35	38.2	クレドを毎日唱和し、スタッフ一人一人に意見を求めている。 利用者さまの希望にそってだいたい支援できている。
28 外	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3	5	4		35	36	昼食会やおやつ作り、季節に合わせたイベント（梅酒づくりなど）も実施。（わくわく昼食会、おやつの日を実施） コロナで制限されているので一緒にはあまりできない。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3	9			39	34.9	体重や活動量に合わせて多少変化を加えてバランスよく食されるよう工夫している。

30 外	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3	9			39	43.6	毎食後ブラシ等で洗浄を行っている。 利用者さまの状態に合わせて口腔セットを変えて清潔保持ができるようにしている。 うがいができない方はティッシュを使ったり工夫している。
31 外	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	2	8	2		36	37.1	毎日、昼夕排便体操の実施、出来る限りトイレで座って排せつしてもらっている。現在おむつの方はいない。 便秘体操をしたり水分量を増加できるようにして工夫している。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2	10			38	34.9	出来る限りご納得いただいて入浴できるように配慮している。 入浴の誘い方もスタッフで共有し、ご本人の意思を尊重し、無理なく入浴されている。
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1	11			37	38.2	
34 外	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1	11			37	37.1	施設内研修で「服薬について」等の研修を行っている。 服薬の量や時間など相談し、スタッフで話し利用者さまの体調の変化などないか観察している。 薬に種類や効果などその都度変更があると日誌などで共有できている。
35 運	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1	10	1		36	34.9	楽しいことを見つけ散歩したりできている。
36 運	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している		9	3		33	31.6	天候の良い日はわずかでも中庭などへ出て外の風にあたっていただくようにしている。 季節によってお花見やコスモス園への外出を行っている。 あまりできていないが、個別支援などで計画を立てたときはできている。

37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1	6	4	1	31	27.3	
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	4	8			40	38.2	ご家族やご友人にテレビ電話等にてお話して頂いている。月一のおたよりと一緒にお手紙を送られているのを目にした。利用者さまの希望がある時はほぼ出来ており、積極的に手紙などは出来ている。
39 外	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	2	10			38	36	固定した空間は設けていないが、今いる利用者さまに合わせてスタッフと話し合い落ち着く空間づくりを行っている。
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）								0	
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	1	11			37	34.9	
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	2	10			38	36	お友達に電話をしているのを目にしたことがある。遠く離れた昔の友人などに電話されている利用者さまもいる。
42 外		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています		12			36	38.2	
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています		11	1		35	37.1	体調に合わせて生活リズムを合わせる工夫をしている。

44 外	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	3	7	2		37	37.1	写真など自宅から持ってきて自宅のように飾ったりしている。
45 運		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる		5	6	1	28	33.8	本人希望ではないかも知れないが季節に合わせて外出を試みたり近所に散歩などはできた。
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	1	11			37	34.9	利用者さまが自分でできるところまでしてもらって、分からなくなったら変わってもらったりしている。
47 外		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている		10	2		34	37.1	食器洗いや洗濯物たたみなど出来る方にしてもらっている。
48 運		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている		1	9	2	23	27.3	コロナの影響がまだあると思います。
49 外	総合	本人は、このGHIにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	1	10		1	35	37.1	
							35.7	36.1	